

## 第105期 中間報告書

平成28年4月1日 ▶ 平成28年9月30日

GLOBAL INNOVATOR  
**YAGI**  
 New Power, New Speed

株式会社ヤギは平成30年10月に創業125周年を迎えます

## ■ 株主の皆様へ

PRESIDENT MESSAGE



代表取締役社長 八木隆夫

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成28年9月30日をもって第105期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の前半を終了しましたので、ここに経営実績とともに事業概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済・金融政策の効果もあり、一定の雇用・所得改善が見られたものの、中国をはじめとする新興国・資源国の景気減速や米国の追加利上げ観測の後退など、不安定な世界経済を反映し、

企業活動や個人消費は力強さに欠ける展開となりました。繊維業界におきましても、消費者の節約志向や低価格帯品へのシフトが顕著となり、夏季の天候不順も重なったことから、一部の高付加価値品を除いて、総じて低調に推移しました。

このような状況の下、当社グループでは中期経営計画「Value Innovation 123」の最終年度にあたり、重点施策である「中核事業の高収益化」「海外事業の拡大・新規事業の強化」「経営管理体制の高度化」を図っており、差別化商材の供給力強化と優良取引先との取り組み深耕に注力しました。繊維二次製品事業の拡大を図るAGP（アセアン・ゲートウェイ・

プロジェクト）は、YAGI&CO., (H.K.) LTD. を基点とする第一段階を終え、本年度から「AGP開発室」として当社営業部門に移し、より顧客ニーズを取り入れやすい体制としました。アセアンで原料と素材に独自性を持たせ繊維二次製品までの一貫モデルを構築するATC（アセアン・テキスタイル・コンバーティング）も着実に取り組みを進めております。さらには、組織を横断した「ODM PROJECT TEAM」「TEX EXPORT PROJECT TEAM」が、欧州の素材・縫製を活用した製品の国内提案や、欧米での顧客獲得に向けた展示会に出展するなど、積極的な活動を展開しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は57,757百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益は1,621百万円（同12.8%増）、経常利益は1,469百万円（同5.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,053百万円（同10.2%減）となりました。

通期の連結業績予想につきましては、取引先に対する債権について、平成28年6月10日の手形不渡りに伴う銀行取引停止により、取立不能または取立遅延のおそれが生じたため貸倒引当金繰入額を556百万円計上した結果、同年5月13日公表数値に対して、売上高は121,000百万円で据え置くものの、営業利益は2,800百万円、経常利益は3,100百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は2,100百万円にそれぞれ、同年7月29日に修正しております。

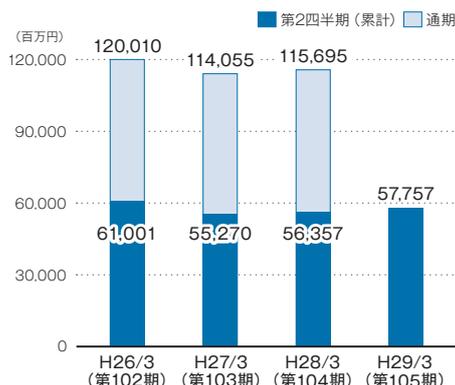
当社グループは、中期経営計画「Value Innovation 123」を推進し、企業価値向上と経営体制強化に努めてまいります。株主の皆様におかれましても、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

平成28年11月

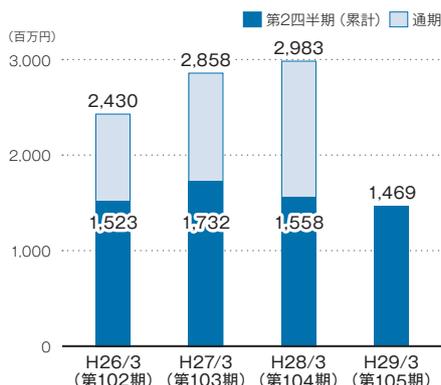
## ■ 第2四半期財務ハイライト(連結)

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

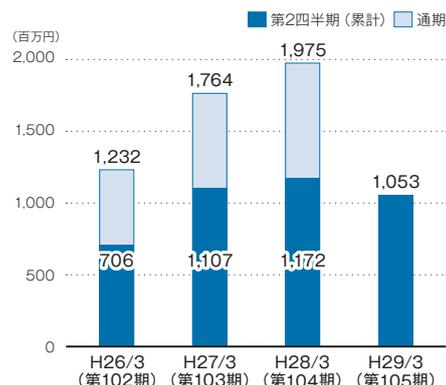
## ● 売上高



## ● 経常利益



## ● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



原料分野

17.1%



原料分野では、天然繊維原料につきましては、国内消費の不振や、円高基調に伴う製品の輸入増加により、和歌山や西脇、備後などの国内産地ではテキスタイルの生産が大きく減退し、それに向けた原料販売も厳しい状況となりました。合成繊維原料につきましては、車両部材用途向け原料販売が堅調に推移しました。需要が減退した資材用途の高機能糸は、需要が回復し販売数量が増加に転じましたが、類似品との価格競争により利益面において苦戦を強いられました。北陸産地では、円高の影響や世界的な景気減速に伴い輸出に陰りが見えはじめ、スポーツやアウター、インナー分野での国内需要の低下もあり、生産調整が長びき原料販売は弱含みで推移しました。

このような状況の下、当社グループは、優良取引先との取り組みを深め、生産を集約することで加工効率を高め、ロスの削減に努めてまいりました。

この結果、原料分野の売上高は9,879百万円(前年同期比6.6%減)となりました。

■ 売上高の推移 (単位:百万円)



テキスタイル分野

12.1%

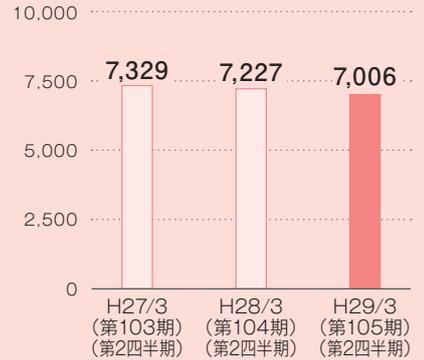


テキスタイル分野では、特殊な機械や素材を使い付加価値のある加工を施したニット生地に対し、依然として根強い需要がありました。しかし、景況感の悪化に加え、円高基調が続く製品輸入が増えたことで、一般的なニット生地および綿織物に対する需要は大きく後退しました。学販スポーツ向けテキスタイル販売につきましては、学販スポーツアパレル各社が全体的に好調となることで受注が増加し、生産に追われる状況となりました。合繊織物につきましては、円高基調が続く、輸出に陰りが見えはじめたことでスペースに余裕が出る状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、販売戦略の要である「テキスタイルプロジェクト」において、在庫の適正化を図るとともに、素材企画力を活かした売れ筋商品の開発により、グループ会社との連携を深め、販売強化に努めました。

この結果、テキスタイル分野の売上高は7,006百万円(前年同期比3.1%減)となりました。

■ 売上高の推移 (単位:百万円)



繊維二次製品分野

66.1%

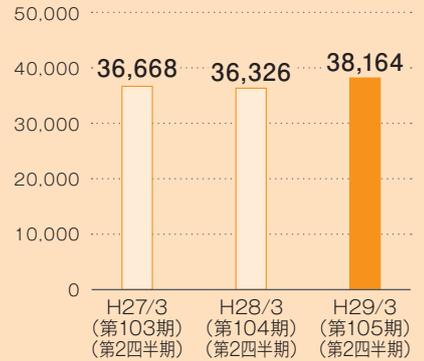


繊維二次製品分野では、景況感の悪さに天候不順が重なり、一部のメンズ物に活況が見られたものの、レディース物や子供服は伸び悩みました。また、カタログ通販向けは全体的に落ち込み、堅調だったテレビ通販も一部を除き頭打ちの状態となりました。百貨店や大手量販店も復調の兆しは見られず、一部の専門店や専門量販向けを除き、総じて苦戦を強いられました。前売り状況が悪化するなか川下からは、より短サイクルで小ロットの対応を求められ、このため納期のかかるアセアンから中国に再シフトする状況も一部で見られました。

このような状況の下、当社グループは、企画段階から請け負い、製造し供給するODM生産を推進しました。分野を横断した取り組みによる新規開拓やオリジナル商材の開発をし、競争力の強化にも努めました。

この結果、繊維二次製品分野の売上高は38,164百万円(前年同期比5.1%増)となりました。

■ 売上高の推移 (単位:百万円)

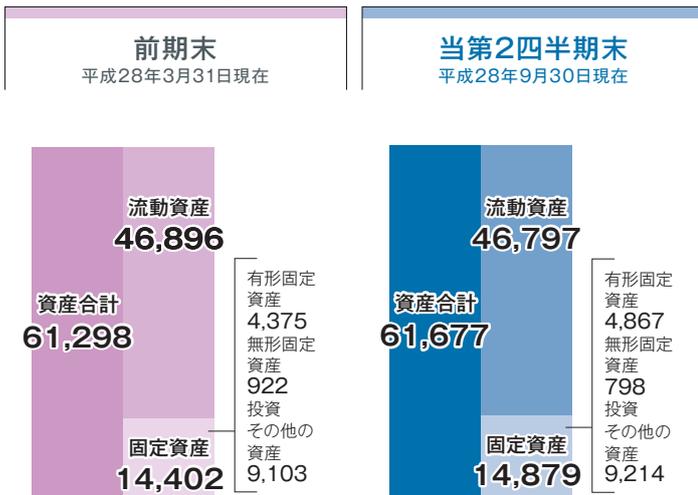


(※売上高構成比はこの他に、繊維事業その他4.3%、不動産事業0.4%があります。)

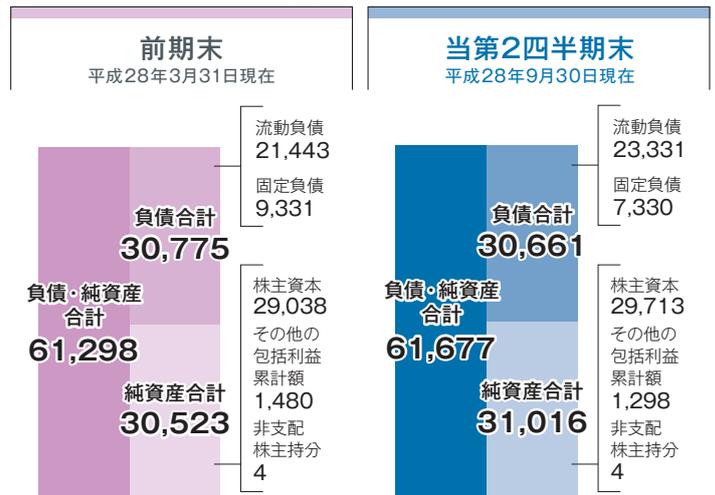
■ 連結財務データ

● 四半期連結貸借対照表

資産の部 (単位:百万円)



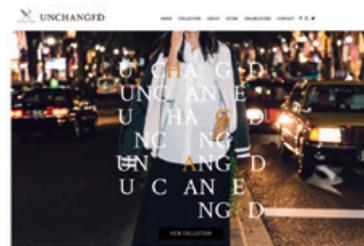
負債・純資産の部 (単位:百万円)



## メンズ・レディス新ブランド「UNCHANGED」誕生！ ～2016-17年秋冬デビュー～

当社は、メンズ・レディスアパレルのオリジナルブランド「UNCHANGED」(アンチェンジド)を2016-17年秋冬より展開します。

テーマは「都会での生活を楽しむ大人たちのためのブランド」。欧州・日本の高品質・高機能な原料・素材にこだわり、さらに欧州の名だたるブランドのものづくりを支える工場で縫製する「Made in Europe」ブランドです。世界中の「いいモノ」が結集する洗練された街「東京」での生活をスタイリッシュかつ快適にするアイテムとして、20歳代後半から30歳代前半のファッション感度の高い男性・女性をターゲットに、「ビジネス」「スポーティ」「モダン」の3つのカテゴリーで、ジャケットとシャツ、ボトムス、アウターを用意しました。今期の秋冬シーズンでのデビューを契機として、来年より本格的に市場展開を進めます。



UNCHANGEDウェブサイト  
<http://www.unchanged.info/>



今回の新ブランド創設は、当社が平成29年3月期を最終年度とする中期経営計画「Value Innovation 123」で重点施策に掲げる「新規事業の強化」の一環であります。当社グループは、今後も持続的な成長に向けて、積極的な事業展開を推進してまいります。



CONSOLIDATED FINANCIAL DATA

### ● 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)



### 会社の概要

社名 株式会社 ヤギ  
英文社名 YAGI & CO.,LTD.  
創業 明治26年10月16日  
設立 大正7年4月28日  
資本金 1,088,000,000円  
主要な事業内容 綿化繊維、合繊糸、綿化繊維物、合繊織物、ニット生地および衣料品等の各種繊維二次製品の国内販売ならびに輸出入  
主要な事業所 (国内)本店 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号  
支店 東京(東京都中央区)、福井(福井市)  
出張所 名古屋(名古屋市)  
営業所 和歌山(和歌山市)  
(海外)駐在員事務所 上海(中国)、ホーチミン(ベトナム)、ハノイ(ベトナム)、バンコク(タイ)、ダッカ(バングラデシュ)

### 役員一覧 (平成28年9月30日現在)

代表取締役会長 八木 秀夫  
代表取締役社長 八木 隆夫  
代表取締役専務取締役 朝野 幸博  
取締役 長戸 隆之  
取締役 山岡 一朗  
取締役 北山 裕士  
取締役 奥村 忠司  
監査役(常勤) 大原 弘幸  
監査役 池田 佳史  
監査役 塩田 修

(注)1.取締役奥村忠司氏は、社外取締役であります。  
2.監査役池田佳史氏および塩田修氏は、社外監査役であります。

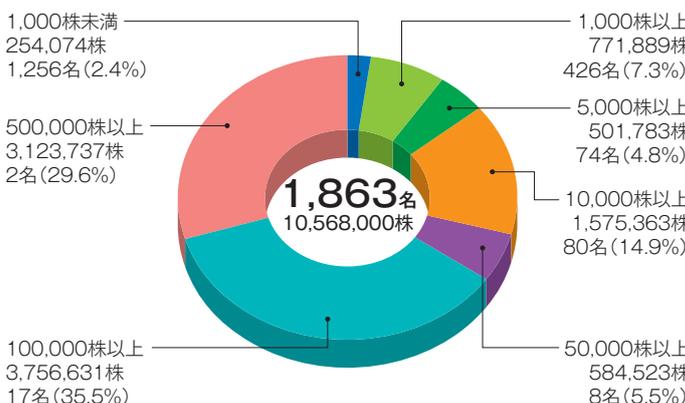
(注)本中間報告書中の記載金額および株式数は表示単位未満の端数を切り捨てております。

- 発行可能株式総数 45,568,000株
- 発行済株式の総数 10,568,000株
- 株主数 1,863名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
ヤギ共栄会	954(千株)	11.36(%)
株式会社みずほ銀行	414	4.93
株式会社三井住友銀行	380	4.52
ビービーエイチ フィデリティ ビューリタン フィデリティ シリーズ イントリンジック オポチュニティズ ファンド	350	4.17
株式会社三菱東京UFJ銀行	305	3.63
ヤギ従業員持株会	300	3.57
ゴールドマンサックスインターナショナル	298	3.56
バンクオブニューヨークシーエム クライアント アカウント ジェイピーアールティアイスジー エフイーエスイー	279	3.32
第一生命保険株式会社	250	2.98
クロスプラス株式会社	229	2.73

(注) 持株比率は自己株式(2,169,437株)を控除して計算しております。

### ● 所有株数別分布状況



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日までの1年  
定時株主総会の基準日 3月31日  
剰余金の配当の基準日 期末配当 3月31日  
中間配当を行うときは9月30日  
単元株式数 100株  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。  
公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。  
ホームページ <http://info.yaginet.co.jp/ir/announce.html>

**【住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について】**  
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

**【未払配当金の支払いについて】**  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。